

# 太平洋戦争年表 ~抜粋~

▶赤字は香南市での出来事  
(※)は下段の写真と関連

- 昭和16年(1941年)
  - ・米英両国に宣戦布告、太平洋戦争が始まる
- 昭和18年(1943年)
  - ・学徒戦時動員体制確立要綱を閣議決定
  - ・上野動物園、空襲時の混乱に備えてライオンなどの猛獣を禁殺
- 昭和19年(1944年)
  - ・女子挺身隊結成(若い女性を軍需工場などに動員)
  - ・国民総武装を閣議決定(竹槍訓練などを開始)
- 昭和20年(1945年)
  - 2月
    - ・米軍上陸に備え、香南市内にも日本軍が展開(県内に約70,000人)(※1)
  - 3月
    - ・東京大空襲
    - ・米軍グラマン戦闘機、吉川町で墜落(※2)
  - 4月
    - ・米軍、沖縄本島に上陸開始
  - 5月
    - ・吉川町・野市町空襲(10名が死亡)(※3)
  - 7月
    - ・高知大空襲
  - 8月
    - ・米軍広島・長崎に原子爆弾を投下
    - ・ポツダム宣言受諾・戦争終結
    - ・夜須町手結山住吉の震洋隊で爆発事故(111名が死亡)(※4)



子どもたちの手は  
武器を握るためではなく  
花を愛でるための手で  
あつてほしいと思う

山中さんのお父さんが撮られたアルバムからお借りしたお姉さんを映した一枚。彼女も軍需工場へ駆り出された



資料提供・協力  
山中起世子さん  
高知市教育委員会  
国立公文書館  
平和資料館「草の家」  
香南市文化財センター



潮江橋の下。火から逃げるために川へ飛び込んだが  
川の水は熱で風呂のように熱かった

## 地獄のような川

川まで行くと橋の下はいっぱいの人で、しかも焼夷弾が足や手にあたって足や手がちぎれ、血だらけの人々でいっぱいでした。まるで戦場です。誰を助けたいのかわかりません。まさに火の海と血の海でした。

また、この暑い夏の夜と火ですから、裸になっていた人が多く、焼けどもひどかったのです。折り返して来た敵機に「やられたー」と、とても悔しく思いました。周囲の火はものすごい音と熱さで、逃げるために川の中に入りましたが、川の水はお湯です。黄燐焼夷弾ですから、流れて来る木や布

## すべて焼け落ちて…

翌日から、町が丸焼けになって何もないので食料も一時の堅パン五個だけで、何日も食べるものはありませんでした。軍隊が助けに来てくれましたが、戦場に出てくる人が多く、焼け石に水の有様で、みんなたたくたたくで倒れる人ばかりでした。

現在の潮江中学校の場所に、私たちの学校がありました。丸焼けで、黒くくすぶっているだけでした。

土佐山田からおじさんが助けに来てくれましたが、山田までも歩いて行かねばなりません。電車も、自動車も、バスも、もちろん止まってしまっていました。

## 戦争のむごさは

もうもうこりこり。  
二度と起こっては  
いかんと思えます。

野市町 山中起世子

山中さんは時を経て幼い頃の写真正と変わらない笑顔を見せてくれた



今思い返せば、良く生きていたなと思います。  
思い出すのも怖くて、つらくて悔しくて…。友人や知人が、たくさん亡くなりましたもの。  
二度とこんな戦争は嫌です。忘れようとしてきましたが「後世にぜひ伝え残してください」という方がいて、もう語る人がいないのかな、と、思い切って書かせていただきました。

## 香南に眠る 戦争の記憶たち



※1 上…夜須町千切の砲台跡  
下…三宝山のトーチカ跡



※2 吉川町に墜落したグラマン戦闘機のエンジンとプロペラ



※3 上…野市町上岡の被爆の碑  
下…投下された爆弾の破片



※4 夜須町住吉の震洋隊慰霊碑